

高齢者肺炎球菌ワクチン接種をご希望の方へ（受けられる前に必ずお読みください）

高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種を受けるにあたっての注意事項

過去にニューモバックスNP（23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン）を接種したことがある方は、定期接種の対象となりません。

1. 肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌がなんらかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こすことがあります。

2. 肺炎球菌ワクチンについて

（1）肺炎球菌ワクチンの効果

肺炎球菌には90種類以上の血清型があり、定期接種で使用される「ニューモバックスNP(23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)」は、そのうちの23種類の血清型に効果があります。この23種類の血清型は成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の約6割～7割を占めるとい研究結果があります。

（2）ワクチンの副反応について

稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様反応、血小板減少、ギランバレー症候群、蜂巣炎様反応等が報告されています。その他、注射部位症状（腫れ、痛み、熱感、発赤、硬結など）の他、全身症状（筋肉痛、倦怠感、悪寒、頭痛、発熱など）の報告もあります。

※接種後に気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐに接種医にご相談ください。

3. 予防接種による健康被害に対する救済措置について

重い副反応がおきてしまったために医療機関で治療が必要な場合や生活が不自由になった場合で、厚生労働省が予防接種と因果関係があると認めた場合には、予防接種健康被害救済制度に基づく救済を受けることができます。

～裏面もご覧ください～

4. 接種に当たっての注意事項について

(1) 予防接種を受けることができない方

- ① 過去にこのワクチンの接種を受けたことがある方(定期接種として接種する場合)
- ② 明らかに発熱している方(通常は37.5℃を超える場合)
- ③ 重い急性疾患にかかっている方
- ④ 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーショック(通常30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことが明らかな方
- ⑤ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

(2) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患のある方
- ② 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ③ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ④ このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方

(3) 接種を受けた後の注意事項

- ① 接種後30分間は、急な副反応が起こることがありますので、医療機関で様子を見ましょう。
- ② **ワクチン接種後1週間は**副反応(健康状態の変化)の出現に注意しましょう。
- ③ 接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④ 接種当日は激しい運動は避けてください。
- ⑤ 接種後に、接種した部位の異常や、体調の変化がある場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

5. 他の予防接種との接種間隔について

高齢者肺炎球菌ワクチンは不活化ワクチンですので、他の不活化ワクチン・生ワクチンを接種する際に接種間隔の制限はありません。

ただし、新型コロナウイルスワクチンに関しては、どちらかのワクチンを接種する前・後それぞれ2週間あける必要があります。

* 高齢者肺炎球菌予防接種に関する詳細は、厚生労働省ホームページをご覧ください。

肺炎球菌感染症(高齢者)厚生労働省

検索

瑞浪市役所 健康づくり課

☎68-9785・9786